

## 「森の王者クマタカとの出会い」

仙人温泉小屋スタッフ：大西達矢



クマタカ成鳥 (2011/9/23 日)  
タカ目タカ科、学名：Spizaetus nipalensis  
英語名：Mountain Hawk Eagle  
レッドリスト (2012年) 絶滅危惧 I B 類 (EN)

仙人温泉小屋では初夏の小屋開けの時期の頃には国の天然記念物であるイヌワシが良く見られる。野鳥好きの自分は姿をはっきりと確認してから6年が経過した。希少性の高いイヌワシは小屋へ週末のみに訪れて都合よく現れるのもまれである。



滋賀県のイヌワシ (2016/10/30 日)

国内にはイヌワシと同じ大型猛禽のクマタカが存在する生態系の中ではイヌワシと双壁を成すピラミッドの頂点、国内最強のタカである。イヌワシが空の王者ならばクマタカは森の王者である。約10年前、野鳥の会に所属している友人の手ほどきで始めた野鳥観察は中央アルプスの裾野木曾周辺だった。この地でどれだけの野鳥が見られるのかという課題を設定して二人で無我夢中になって山の中を駆け巡った。木曾までは車で6～8時間は要する県外の二人は毎週末のようにして木曾へ訪れた。100種までは約2年で簡単に到達した。小鳥が中心で猛禽類は中々数が増えなかった。

理由として考えられたのは観察を始めた周辺では治山工事が盛んで砂防ダム整備の為ダンプの往来が激しかった時期でもあった。猛禽類は餌となる小動物が生息できなければ姿を現さない。生態系の上位に位置する猛禽類は健全な生態系が守られているかの指標でもある。豊かな森を維持する自然環境に昆虫類や爬虫類が集まり、小動物や大型獣、小鳥などが育み猛禽類も集まってくる。野鳥に詳しい友人は口癖のように良く話した

「森深いこのような環境では両翼に畳の様な翼を持った大きな鳥がいるんだ」

「いてもおかしくないんだけどな」

友人は明確に種を明かさなかったが2～3年でボロボロになった野鳥図鑑を見ていると山の中にいる両翼が畳の様な大きな翼？

それはクマタカか？

自分のイメージしていた中でクマタカの存在は日々大きくなって行った。

図鑑には「全国の山地の森林で繁殖して秋春も移動しない。個体数は少ない」クマタカの情報は限られていた。

森の中を中心に過ごすクマタカは人の前に姿を中々現さない

観察が困難なことから生態もよく解明されていないらしい

そういった中で週末の野鳥観察は続けられた。

何時ものように車でゆっくり林道を移動しながら外を眺めている時だった。

距離が離れた大きな松ノ木に大きな鳥が止まっていた。

最初は良く見るノスリと思った。

約100m離れた止まり木の鳥は明確に種を同定出来なかったが

友人は明らかに動揺していた「これは奴だよ畳かもしれないよ」



(2011/2/13 日)

その時カラスが2羽やって来て止まり木の鳥を飛ばしたのだった。



若い成鳥の♀ (2011/2/13 日)

我々がこの地で見る初めてのクマタカの姿だった。  
友人の分析で2年目以降の若鳥だと言うことがわかった。  
大きな翼に綺麗な模様は正に畳だった。  
初めて見たクマタカに魅せられてしまった瞬間でもあった  
この日を境にして、この地でどれだけの野鳥が見られるかの課題は終了した。  
クマタカを追い駆けることに終始する始まりでもあったのだ。  
林道を車で走らせての観察に林道ゲートをくぐっての歩き観察  
目的がクマタカに限定されると何回か飛翔している姿を目撃した。  
地図上にAポイントで始まりB、C、と目撃した矢印ポイントが増えて行った。  
グーグルアースや地図を眺めてはテリトリーを推測して藪漕ぎも行った。  
しかし。見られない週末がほとんどだった。  
クマタカを目撃したポイントに行っても2回目以降は姿がまったく見えないのである。  
見晴らしの良いポイントから早朝夕方まで成果ない観察が続いた。  
「何処か別の場所へ移動したのかな？」  
良く行く尾根で双眼鏡で見渡していると遠くの推測とは反対の方向で旋回しているクマタカを確認した。  
クマタカはしたたかに生きている。あざ笑うかのようにけっして近くには現れない  
「奴は視力が良いんだ、我々の行動はお見通しだよ」  
数ヶ月無駄な週末が続いた。  
でも無駄骨掘って歩き続けても週末は楽しかった。クマタカに逢えなくても他のハイタカやノスリ、ツミなど沢山の猛禽類を観察出来た。  
廃道となった林道や治山工事の終わった林道など荒れた所には思いがけない出会いが必ずある。  
集落の周辺畑の続く場所も楽しい所だった。



ノスリ (2011/3/6日)

クマタカ目的の林道歩きは別の目的に段々と変わっていった。  
クマタカの見ない日々が続きGW過ぎた新緑の季節だった  
共に登山もしている友人とは、この地から少し離れた所で登山する機会があった  
アマチュアの山岳写真家としても実績をあげている友人は写真の構図としての撮影場所も探していた。名の知れた人の多い山は面白くない  
廃道となった林道から奥に入った尾根を目指した。  
以前から目星をつけていた場所でもあったのだ

少し藪こぎすれば見晴らしの良い尾根に出られるだろうと憶測して登ったのだ。  
この時は今後6年に渡ってこの場所を100回近くも往復するようになるとは夢にも思わなかった。  
数時間登ってたどり着いた所は予想通り見晴らし良い一角があった。  
森に囲まれた人知れない場所でもある。  
見晴らし良い所で担いで来たビールを飲むのが我々のスタイルである。  
風が心地よく気分良く景色を眺めている時だった。谷の上昇気流を掴んで大きな鳥が旋回しているのを確認した。「なんだろう？トビかな？」  
隣のいる友人に振り向いた。顔が笑っていた「なんだこんな所にいたんだ！ 豊だよ！」  
大きな両翼を反り上げて滑空している姿は正しくクマタカだった。  
大きな豊の様な翼がはっきりと見えた。



クマタカ♀成鳥 (2016/11/12日)

心地よい酔いも一気に吹っ飛んでしまった。  
クマタカ観察に絶好の場所との出会いでもあったのだ。  
深い森に囲まれた場所である。  
この日はこの場所から5～6回、目の前で旋回している姿を確認した。  
後からわかったのだが、この時は昨年にも生まれた若鳥を育てている最中だったのだ  
確認したのは、♀の成鳥に若鳥は♀であった。3羽のクマタカの飛翔が谷いっぱいに展開されるこの場所に興奮した  
それからと言うものは友人と毎週末のほとんど、この場所へ訪れた。



クマタカ♀2年目の若鳥 (2011/7/3日)

クマタカは他の猛禽には見られない習性がある

子育ての時期が非常に長いのだ、普通の猛禽類は冬か春に雛が生まれ、その年の秋に大抵は親離れをして独立をする。クマタカは翌年の秋まで親からの給餌が続く

良く行く野鳥園のレンジャーに聞いた情報では3～4年続いた記録もあり

雛が生まれてから2年目に次の雛が生まれ、それから平行して給餌して貰っている若鳥の報告もあるらしい、親離れが2年以上かかる遅い個体はほとんどが♀と言う事を聞いた。

クマタカがそのような育て方をするのは1個しか産まない卵を大事に育て確実に子孫を残すことも理由の一つかもしれない

しかし、このような育て方をするには給餌が確実に出来ること

狩の対象となる獲物が豊富なことに直結する。

豊かな自然環境が無いとクマタカは繁殖が難しいのではないかと思う。

この場所へは行けない月もあったので見逃している個体もあったかもしれないが

この場所へ訪れるようになって6年で今年3羽目の若鳥が巣立ったのを確認した。



今年生まれたクマタカ幼鳥 (2017/9/30日)

山深い森の中でしたたかに健気に生きているクマタカを見ると不思議に元気が湧いてくる。

この場所を発見してからは、この周辺の林道も歩くようになった

クマタカの行動範囲となる指標4平方キロメートルのテリトリー内の森の環境も知りたかったからだ。林道を歩いている時に何回かクマタカに遭遇したことがあった。

歩く時は必ず望遠レンズ付きのカメラを肩に下げている。

クマタカ写真を撮ることも考えてのスタイルでもあるが

しかし森の中で遭遇したクマタカを撮れたためしがない、姿を現すのは一瞬なのだ

密集している木々の中で高速で移動していることも考えられる。

歩いている前を横切ったこともあった。

密集している木々の中からザワザワパキパキと大きな掻き分ける音がして獣がいる気配を感じたこともあった。その時はカモシカでも暴れているのかな?と思ったものである。

気配を感じた木々の中から褐色の塊が飛び出してきた。

直ぐに前を飛んで通り過ぎて行ったが、一瞬の出来事で写真を撮ることは出来なかった。

しかし、その時はっきりと縞模様に見える尾の後姿を確認した。

クマタカに違いなかった。初夏から夏にかけてクマタカは羽が痛んでいるのを良く目にする。

羽がボロボロになっている姿だ。



左翼風切羽を痛めている♂成鳥 (2011/8/8 日)

換羽時期と重なり木々に擦れて風切羽を痛めているのではないだろうかと思う。

クマタカの独特な畳の様な模様は森の中では見事に溶け込む

特に新緑から夏の季節、葉が生い茂っている時には迷彩となり見つけ出すのは困難だ

正に森の忍者とはクマタカの事を指すのであろう

これまでクマタカが直接狩をしている所は確認したことは無いが

森の中で垣間見た素早いクマタカの行動を想像するに当たり、狙われた小動物は逃れることが困難である事が憶測出来る。

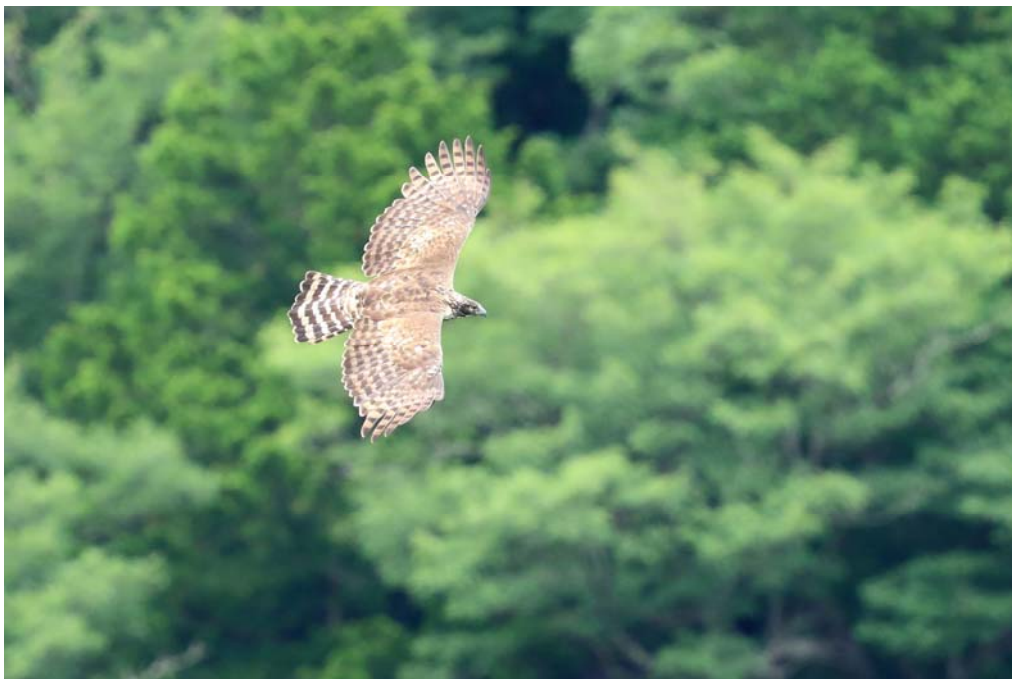
近年クマタカの繁殖率が落ちていると言う情報をよく聞く

森林開発に治山工事、ダムの建設などは森に暮らすクマタカにとっては致命的であろう。

鹿やイノシシなど害獣が増えたことも一因ではないかと思う

数を減らすには猟銃による駆除が手っ取り早い

猟銃の散弾銃に使用された鉛弾が駆除された害獣の体に残り放置される。それを食したクマタカが鉛中毒により命を落としているのだ。



♂成鳥 (2017/8/5 日)

偶然に見つけた、この場所に来るようになってから今年で6年が過ぎ7年目に突入したが繁殖は順調に行われているように見える。頻繁に獲物を掴んでいる姿も目撃している。  
クマタカの寿命は30～40年と言われているが  
ここのクマタカの年齢が何歳なのかわからない  
後何年観察できるかわからないが、繁殖の邪魔にならないよう今後も観察は続けたい  
ここの自然環境が将来も守られることを願うばかりだ

平成29年12月10日

参考文献資料：鳥 630 図鑑 発行. 財団法人日本鳥類保護連盟

：フィールドガイド日本の野鳥 著作 高野伸二

：空と森の王者イヌワシとクマタカ 著作 山崎亨

：日本の鳥の世界 著作 樋口広芳

：マーリン通信 <http://www.tcp-ip.or.jp/~wakasugi/>